

文化学原論・生命環境倫理学・西洋教育史

ゼミ35年間の歩み

川本隆史

研究室紀要 第42号 別刷

東京大学大学院教育学研究科 基礎教育学研究室

2016年7月

文化学原論・生命環境倫理学・西洋教育史

——ゼミ35年間の歩み

川 本 隆 史

♪♪見えない自由がほしくて 見えない鏡をうちまぐる

I 跡見学園女子大学の17年間（1980年～1997年）：文化・シンボル・女性学

【前史】 大学院博士課程3年次に進級した1979年4月、相良亨先生（日本倫理思想史〔1921～2000〕）の仲介により跡見学園女子大学文学部文化学科の非常勤講師に任用され、「原典研究I」（2年生対象）および「原典研究II」（3年生対象）を開講（テキストはそれぞれJ・S・ミルの『女性の隷従』と『自由論』の原文）→同年11月の同大大学祭（紫祭）期間中、森園節生先生（東大文学部倫理学研究室の大先輩〔1923～1992〕）のご自宅に呼ばれて、専任講師就任の打診を受ける（学科創設時に招聘された太田和彦先生〔1905～1984〕の後任として、「文化学原論」の講義および演習を担当しないか？）→後日、履歴書を提出し12月の教授会で採用決定。

跡見の文化学科は、森園先生のほか同じ倫理学研究室出身の渡部武先生（専任・日本思想史〔1923～〕）や多彩な分野の教員を揃えていた。

1980年度

文化学演習（三年）：福沢諭吉〔1835～1901〕『文明論之概略』（岩波文庫1962年）

文化学研究（二年選択必修のサブゼミ）：A. L. Kroeber and Clyde Kluckhohn, *Culture: A Critical Review of Concepts and Definitions*, 1963 [1952]

原典研究I：T. S. Eliot, *Notes Towards the Definition of Culture*, 1948

原典研究II：E. Cassirer, *An Essay on Man: An Introduction to a Philosophy of Human Culture*, 1944（第二編「人間と文化」から）

*文化学特殊講義：文化と社会——文化社会学の展

開（前期に竹内敏晴〔1925～2009〕『ことばが勢かれるとき』思想の科学社1975年を紹介）。

*倫理学（一般教育科目）：テキストに吉野源三郎〔1899～1981〕『君たちはどう生きるか』（《ジュニア版・吉野源三郎全集1》ポプラ社1967年）を採用。

*同年10月1日、3年生有志の要望を受け課外の読書会を始める（当初は毎週水曜の夕方、研究室にて／後に学士会館本郷分館や東大文学部倫理学科の演習室、池袋の喫茶店なども使う）→最初に取り上げた竹内敏晴のエッセイ「子どものからだことば」（『ことば・詩・子ども』世界思想社1979年所収）を通じて「共生態」や林竹二〔1906～1985〕の教育実践に目を開かれるとともに、参加メンバー数名が手作りしていた同人誌『洞窟』の寄稿者に加わる（第3号：1980年12月12日および第4号：1981年5月23日）。

1981年度

文化学演習（三年）：E・カッシーラー『人間——この象徴を操るもの』（岩波書店1953年）

文化学演習（四年）：J・ホイジンガ『ホモ・ルーデンス』（中公文庫1973年）

文化学研究（二年）：B・マリノフスキー「文化論」（同『未開社会における犯罪と慣習』新泉社1967年所収／初出は1931年、*Encyclopaedia of the Social Sciences*の項目“Culture”）

*「文化学原論」（一年必修）を開講（移行措置として三年対象の別クラスを開く）。

1982年度

文化学演習（三年）：スザンヌ・ランガー『シンボルの哲学』（岩波書店1960年）

文化学演習(四年)：ホイジンガ『ホモ・ルーテンス』(中公文庫)

文化学研究：竹内敏晴『子どものからだとことば』；M・メルロ＝ポンティ「幼児の対人関係」(同『眼と精神』みすず書房1966年所収)ほか

*同僚の大江一道先生(西洋史〔1928～〕)の助言・助力を得て、年度末の1983年3月25日に跡見学園女子大学文化学会の機関誌『フォーラム』創刊号を刊行(第15号〔1997年3月〕まで編集に携わる)。

1983年度

文化学演習(三年)：ランガー『シンボルの哲学』(岩波書店)

文化学演習(四年)：ランガー『哲学的素描』(法政大学出版局1974年)

文化学研究：岡本夏木〔1926～2009〕『子どもとことば』(岩波新書1982年)；竹内敏晴『子どものからだとことば』(晶文社1983年)；メルロ＝ポンティ「幼児の対人関係」ほか

1984年度

文化学演習(三年)：ランガー『シンボルの哲学』(岩波書店)

文化学演習(四年)：ランガー『シンボルの哲学』(岩波書店)

文化学研究：岡本夏木『子どもとことば』(岩波新書)；竹内敏晴『子どものからだとことば』(晶文社)；メルロ＝ポンティ「幼児の対人関係」ほか

1985年度

文化学演習(三年)：ランガー『シンボルの哲学』(岩波書店)

文化学演習(四年)：カッシーラー『人間——この象徴を操るもの』(岩波書店1953年)

文化学研究：岡本夏木『子どもとことば』(岩波新書)；竹内敏晴『子どものからだとことば』(晶文社)；メルロ＝ポンティ「幼児の対人関係」ほか
原典研究II：L. Wittgenstein, *Philosophical Investigations*, 1953

1986年度

文化学演習(三年)：ランガー『シンボルの哲学』(岩波書店)

文化学演習(四年)：カッシーラー『人間』(岩波書

店)

文化学研究：岡本夏木『子どもとことば』(岩波新書)；竹内敏晴『子どものからだとことば』(晶文社)；メルロ＝ポンティ「幼児の対人関係」

原典研究II：M. Merleau-Ponty, *Consciousness and the Acquisition of Language*, 1973

*この年、キャロル・ギリガン『もうひとつの声』(川島書店1986年／池袋の芳林堂書店で6月21日購入、8月15日読了)が打ち出した《ケアの倫理》を、国立婦人教育会館(当時)主催の「女性学講座」のシンポジウム発題「女性・道徳・平等——倫理学の組み換えのために」で紹介(8月29日)。←同書の概要は、『書斎の窓』(有斐閣)1985年7＝8月号所収の岩男寿美子氏〔1935～〕のエッセイ「性差研究への一つの感想」で教わっていた。

1987年度

文化学演習(三年)：ランガー『シンボルの哲学』(岩波書店)

文化学演習(四年)：カッシーラー『人間』(岩波書店)

文化学研究：岡本夏木『子どもとことば』(岩波新書)；竹内敏晴『子どものからだとことば』(晶文社)；メルロ＝ポンティ「幼児の対人関係」

原典研究II：M. Merleau-Ponty, *Consciousness and the Acquisition of Language*, 1973

*前年度より「経済計画論」の代講を始めた一橋大学経済学部において、大学院自主ゼミ「正義論」を開始(塩野谷祐一先生〔1932～2015〕ほか経済学部や法学部の教員、他大学院生も加わり、D. Gauthier, *Morals by Agreement*, 1986を皮切りにD. Parfit, *Reasons and Persons*, 1984へと読み進む。Rawls, Sen, Nussbaumも扱い、1996年度まで継続)。

1988年度

文化学演習(三年)：ランガー『シンボルの哲学』(岩波書店)

文化学演習(四年)：カッシーラー『人間』(岩波書店)

文化学研究：岡本夏木『子どもとことば』(岩波新書)；竹内敏晴『子どものからだとことば』(晶文社)；メルロ＝ポンティ「幼児の対人関係」

原典研究：M. Merleau-Ponty, *Consciousness and*

the Acquisition of Language, 1973

1989年度

文化学演習（三年）：キャロル・ギリガン『もうひとつの声』（川島書店）

文化学演習（四年）：カッシーラー『人間』（岩波書店）

文化学研究：中埜肇〔1922～1997〕『哲学の人間学』（放送大学教育振興会1988年）

原典研究：S. Demetrakopoulos, *Listening to Our Bodies: The Rebirth of Feminine Wisdom*, 1983〔ステファニー・テメトラコポウロス『からだの声に耳をすますと——よみがえる女の知恵』（思想の科学社1987年）〕

1990年度

文化学演習（三年）：ギリガン『もうひとつの声』

文化学演習（四年）：江原由美子〔1952～〕編『フェミニズム論争』（勁草書房1990年）

文化学研究：中埜肇『哲学の人間学』（放送大学教育振興会）

原典研究：M. Midgley and J. Hughes, *Women's Choice: Philosophical Problems Facing Feminism*, 1984〔M・ミッジリー&J・ヒューズ『女性の選択——フェミニズムを考える』（勁草書房1990年）〕

* 東京大学大学院経済学研究科院生（当時）の稲葉振一郎さん〔1963～〕が組織した同研究科「自主ゼミ」講師を務める（1991年度まで）。初年度はロールズ、セン、ハーバーマス、ルーマンらの正義論・社会理論の基本文献、翌年度はGraham Burchell *et al.* (eds.), *The Foucault Effect: Studies in Governmentality: With Two Lectures by and an Interview With Michel Foucault*, 1991を読み合せた。

1991年度

文化学演習（三年）：M・フーコー『性の歴史Ⅰ：知への意志』（新潮社1986年）

文化学演習（四年）：川本隆史『抵抗の倫理学へむかって』（『制度と自由』岩波書店1991年、所収）ほか

1992年度

文化学演習（三年）：ミッジリー&ヒューズ『女性の選択』

文化学演習（四年）：フェミニズムとフーコー

文化学研究：竹田青嗣〔1947～〕『自分を知るための哲学入門』（筑摩書房1990年）

文化学特殊研究（三年選択必修）：M・フーコーを読む

* 東京大学教養学部の「社会哲学演習Ⅰ」（学部専門課程／後期）を担当。マイケル・フリーデン『権利』（昭和堂1992年）をテキストに用いる。

1993年度

文化学演習（三年）：井上輝子〔1942～〕『女性学への招待』（有斐閣1992年）

文化学演習（四年）：フェミニズムとフーコー

文化学研究：竹田青嗣『自分を知るための哲学入門』

文化学特殊研究：女性学基礎文献講読

* 「女性と文化」開講（一年必修、「文化学原論」を名称変更）。

* 一橋大学経済学部の「経済計画論」を聴講した学生の依頼を受け、室田武〔1943～〕ゼミ4年次を非公式に担当（担当教員の在外研究期間中の代替措置）、ゼミ合宿にも参加。

1994年度

文化学演習（三年）：井上輝子『女性学への招待』（有斐閣）

文化学演習（四年）：S・ボーヴォワール『第二の性』（新潮文庫1959年）

文化学特殊研究：女性学基礎文献講読

* 藤原保信先生〔1935～1994〕の意向に添い、早稲田大学政治経済学部「社会思想史」（一般教育科目、後に「社会思想史入門」と名称変更し現在にいたる）を引き受け、合わせて「教養演習」を開く（ゼミは2005年度まで）。

* 1995年1月15日、初めての単著『現代倫理学の冒険——社会理論のネットワークキングへ』（創文社）を世に送る（跡見学園女子大学学術出版助成金の交付を受けた）。

1995年度

文化学演習（三年）：ミッジリー&ヒューズ『女性の選択』（勁草書房）

文化学演習（四年）：フェミニズムの規範理論
文化学特殊研究：女性学基礎文献講読

1996年度

文化学演習（三年）：村松安子〔1937～2013〕・村松泰子〔1944～〕編『エンパワーメントの女性学』（有斐閣1995年）〔この学年の四年ゼミと卒論指導は、非常勤講師をお願いしていた金井淑子さん（1944～）が引き継いでくださった。〕

文化学演習（四年）：江原由美子編『生殖技術とジェンダー』（勁草書房1996年）

文化学特殊研究：ギリガン『もうひとつの声』

* 同年4月にスタートしたNHK教育テレビの大型教養番組「未来潮流」に出演、3年ゼミの討論風景、ギリガンから受けた衝撃についての激白、図書館での総括トークが放映される（「倫理学者・川本隆史のくいのちのケアを洞察する」）7月6日オンエア、75分。

II 東北大学の7年間（1997年～2004年）： 正義・ケア・共生

【前史】 1996年6月21日、岩波書店の『新・哲学講義』編集会議終了後、野家啓一さん〔1949～〕&清水哲郎さん〔1947～〕より東北大学文学部哲学科への異動を持ちかけられる→7月19日、野家さんより内定の知らせを受け、ただちに跡見学園女子大学の飯島周学長〔1930～〕に伝える（東北大学文学部の大学院重点化をにらんだ新設分野「生命環境倫理学」を受け持つことに）。

1997年度

哲学思想講読（学部）：Thomas Nagel, *What Does It All Mean?: A Short Introduction to Philosophy*, 1987〔T・ネーゲル『哲学ってどんなこと？——とつても短い哲学入門』（昭和堂1993年）〕

生命環境倫理学研究演習（大学院）：John Rawls, *A Theory of Justice*, 1971（序文～）

* 1997年4月10日、二冊目の単著『ロールズ：正義の原理』（講談社）刊行。

1998年度

哲学思想講読：Ernst Cassirer, *An Essay on Man: An Introduction to a Philosophy of Human*

Culture, 1944

生命環境倫理学研究演習（大学院）：Rawls, *A Theory of Justice*, 1971（第2章～）

* 1998年7月28日、編著『共に生きる』（新・哲学講義6、岩波書店）刊行。

1999年度

生命環境倫理学演習（学部）：Rawls, *A Theory of Justice*, 1971

生命環境倫理学研究演習：C. Gilligan, *In a Different Voice: Psychological Theory and Woman's Development*, 1982

* 転換教育科目「哲学以前」（後期／文学部2年生・哲学専修進学予定者対象）を担当（テキスト：吉野源三郎『君たちはどう生きるか』岩波文庫1982年。2003年度まで）。

* 大学院農学研究科の「生命圏倫理学」（修士課程必修／分担）を兼担（現在にいたる）。

2000年度

生命環境倫理学演習：Rawls, *A Theory of Justice*, 1971

生命環境倫理学研究演習：“Care”, in *Encyclopedia of Bioethics, Rev. ed.*, 1995 + C. Gilligan, *In a Different Voice*, 1982

* 2000年3月25日、高橋久一郎氏〔1953～〕との共編著『応用倫理学の転換——二正面作戦のためのガイドライン』（ナカニシヤ出版）刊行。

2001年度

生命環境倫理学演習：Suzanne Gordon *et al.*(eds.), *Caregiving: Readings in Knowledge, Practice, Ethics, and Politics*, 1996 (Part I 「生き方としてのケアリング」から)

生命環境倫理学研究演習：Rawls, *A Theory of Justice*, 1971（第3章から）

2002年度

生命環境倫理学演習：Suzanne Gordon *et al.*(eds.), *Caregiving: Readings in Knowledge, Practice, Ethics, and Politics*, 1996 (Part IV 「ケアリングの政治学」から)

生命環境倫理学研究演習：Rawls, *A Theory of Justice*, 1971（第7章から）

2003年度

生命環境倫理学演習: *Encyclopedia of Applied Ethics*, 4 vols., 1998

生命環境倫理学研究演習: Rawls, *A Theory of Justice*, 1971 (第8章後半から)

* 5月6日 哲学科学生有志の企画になる上映会『チョムスキー9.11』(ジャン・ユンカーマン監督作品/文学部棟視聴覚教室)に協力、討論会にも参加。

* 新設された立命館大学大学院先端総合学術研究科の「公共論II」(9月・集中講義)がスタート(～2014年度まで)。11年度からはジョン・ロールズ『正義論〔改訂版〕』を講読。

III 東京大学の11年間(2004年～2015年): 社会・シティズンシップ・脱集計化

【前史】〔1998年1月10日、岩波書店『思想』特集号準備の研究会発足。市野川容孝さんの呼びかけにより、栗原彬さん、立岩真也さん、小松美彦さん、金森修さん、佐藤学さんらと楽しい「学び」の輪を拡げる→その成果は、同誌907号=2000年1月号《アイデンティティの政治学》および908号=2000年2月号《生命圏の政治学》へと結実する〕。

2003年9月26日、東大教育学部教授会にて「西洋教育史」教授人事決定の一報を受け、研究科長・野家啓一さんに転出希望を伝える→東大からの割愛願が受理される→2004年3月9～10日、教育学コースのスタッフ合宿@箱根に参加。

2004年度

西洋教育史演習(学部): 藤田省三〔1927～2003〕『精神史的考察』(平凡社ライブラリー2003年)+同『不良精神の輝き』(『現代の理論』1984年1月号)+マイケル・イグナティエフ『ニーズ・オブ・ストレンジャーズ』(風行社1999年)

西洋教育史演習(大学院): Nel Noddings and M. Slote, “Changing Notions of the Moral and Moral Education”, in: *The Blackwell Guide to the Philosophy of Education*, 2003 + Nel Noddings, *Starting at Home: Caring and Social Policy*, 2002

教育学基礎演習(学部/駒場4学期分担): 吉野源三郎『君たちはどう生きるか』

* 「西洋教育史概説」(学部/冬学期)開講(林竹二先生の授業記録「人間について」を導入に用いて、西洋教育史の基底をなす「理性」、「労働」、「自由」、「社会」、「正義」、「ケア」といったキー概念の《学びほぐし》(unlearning)を企てる)。

* 前任者のゼミ生有志の要請を踏まえて、月曜大学院ゼミ後に読書会を開く(4月26日より、最初のテキストはD・ハミルトン『学校教育の理論に向けて——クラス・カリキュラム・一斉授業の思想と歴史』世織書房1998年)。

2005年度

西洋教育史演習(学部): ジェイン・ローランド・マーティン『女性にとって教育とは何であったか——教育思想家たちの会話』(東洋館出版社1987年)

西洋教育史演習(大学院): Nel Noddings, *Happiness and Education*, 2003

教育学基礎演習(学部/駒場4学期分担): 吉野源三郎『君たちはどう生きるか』

* 2005年7月22日、編著『岩波応用倫理学講義 4 経済』(岩波書店)刊行。

* 2005年8月25日、編著『ケアの社会倫理学——医療・看護・介護・教育をつなぐ』(有斐閣)刊行。

2006年度

西洋教育史演習(大学院/冬学期): ネル・ノディングズ『教育の哲学』(世界思想2006年)+金井淑子編『ファミリー・トラブル——近代家族/ジェンダーのゆくえ』(明石書店2006年)〔国内研修中の金井淑子さん(横浜国大)との協働運営→ゼミML始動〕

* 大学院に新設された、学校教育高度化専攻の教員(教育内容開発コースの人文社会教育分野担当)を併任し、「市民性の教育理論」(大学院/夏学期)開講(～2013年度まで)。

* 複数の院生からの提案により、月曜ゼミとは別建ての勉強会を始める(初回は2007年2月24日、ロールズ『正義論』訳稿検討からスタート。2007年度4月から第四土曜日を定例開催日と定めて「四土会」を名乗る。適宜、修論構想発表や論文検討も組み入れて2010年度まで続けたが、月曜日以外の開催日時を調整・確保するのが難しくなったこともあり、月曜ゼミの「第二部」および「番外ゼミ」

へと発展的に解消した)。

2007年度

西洋教育史演習(学部)：マーティン『女性にとって教育とは何であったか』

西洋教育史演習(大学院)：『正義論』訳稿検討+『生命倫理百科事典』(丸善2007年)の項目「ケア」+品川哲彦〔1957～〕『正義と境を接するもの』(ナカニシヤ出版2007年)

教育学基礎演習(学部/駒場4学期)：吉野源三郎『君たちはどう生きるか』

2008年度

西洋教育史演習(学部)：Amélie Oksenberg Rorty (ed.), *Philosophers on Education: New Historical Perspectives*, 1998

西洋教育史演習(大学院)：ロールズ『正義論』訳稿検討(金森修〔1954～〕、鬼頭秀一〔1951～〕に川本を加えた「KKKゼミ」を二回開催)。

*2008年4月24日、三冊目の単著『共生から』(双書・哲学塾、岩波書店)刊行。

2009年度

西洋教育史演習(学部)：Amélie Oksenberg Rorty (ed.), *Philosophers on Education*, 1998

西洋教育史演習(大学院)：マーサ・ファインマン『ケアの絆——自律神話を超えて』(岩波書店2009年)+Gilligan, *In a Different Voice: Psychological Theory and Women's Development*, 1982

2010年度

西洋教育史演習(大学院)：Gilligan, *In a Different Voice*, 1982

*ロールズ『正義論〔改訂版〕』第1刷(紀伊國屋書店2010年11月24日)発行。

*NHK教育テレビの新番組「Q～わたしの思考探究～」第7回「幸せを感じる社会とは」に出演し、川嶋あいさん〔1986～〕の問いかけを受ける。番組冒頭、研究室でTHE BLUE HEARTSを聴いている、「やらせ」のシーンが流れる(2011年2月19日放映、30分)。

2011年度

西洋教育史演習(大学院)：Gilligan, *In a Different*

Voice, 1982+Rawls, *Collected Papers*, 1999〔川本の翻訳担当部分〕

*高度化専攻「市民性の教育理論」(大学院/夏学期)：ロールズ『正義論〔改訂版〕』講読。

*NHK・Eテレの「白熱教室JAPAN」に出演、6月26日に広島大学文学部の教室で公開収録を行い、7月24日と31日に「ヒロシマからフクシマへ届けられるもの」(前編/後編)と題してオンエア(各60分/8月にはNHKワールド・プレミアムより英語吹き替え版が国際放送された)。

2012年度

西洋教育史演習(大学院)：Gilligan, *In a Different Voice*, 1982+Rawls, “On My Religion,” in do., *A Brief Inquiry into the Meaning of Sin and Faith*, 2010

*高度化専攻「市民性の教育理論」(大学院/夏学期)：ロールズ『正義論〔改訂版〕』講読。

2013年度

西洋教育史演習(大学院)：アマルティア・セン『正義のアイデア』(明石書店2011年)+Rawls, *A Brief Inquiry into the Meaning of Sin and Faith*, 2010

基礎教育学方法論演習II(学部)：ロールズ『正義論〔改訂版〕』講読。

*高度化専攻「市民性の教育理論」(大学院/夏学期)：上記「西洋教育史演習」と合同。

*国際基督教大学「哲学講読I」：ロールズ『正義論〔改訂版〕』講読(2014年度まで)。

2014年度

西洋教育史演習(大学院)：Rawls, *A Brief Inquiry into the Meaning of Sin and Faith*, 2010

基礎教育学方法論演習I(学部/駒場4学期)：ロールズ『正義論〔改訂版〕』講読。

おわりに——三つのモットー

「私のニヒリズムといってもそんなに高遠な思想ではない。とにかく、いばる人はきらいなのだ。いばる人というのは、なにかによりどころをもっていないいばるのだが、そういうよりどころをみんながみとめないことにすれば、いばれなくなるは

ずだ。伝統だとか、社会的地位だとか、過去の功績だとか、富裕であることとか、そういうものを、たいしたものではないと思えばいい。むずかしくいうと一切の権威をみとめないことだ。」(松田道雄〔1908~1998〕「私のニヒリズム」、『毎日新聞』1973年3月20日〔同『幸運な医者』岩波書店1998年に引用])

*“*Cultura animi philosophia est.*”〔魂のカルチャー(涵養・陶冶)こそが哲学である。(キケロ)〕:跡見学園女子大学「文化学演習」のスローガンに用いた。

① 「立ち入らず、立ち去らず」(拙論「自己決定権と内発的義務——〈生命圏の政治学〉の手前で」、『思想』2000年2月号)

*母の介護体験から思いついた標語だが、「学生の学ぶ自由をとことん尊重しながら、大人たちの成長を付かず離れずに見守り続ける」という身構えにも転用できないかと考えた。

② “統べず・括らず、ほぐし・ばらす、(イエズス会の教育方針“*cura personalis*”〔=Care for the Entire Person〕もしくは「脱集計化」disaggregationの実践指針として)

*「この学年は(今年のゼミ生は)～」と一括評価しがちな教師への自戒として。学生一人ひとりに向きあい、ケアするためには《ほぐし・ばらす》作業が欠かせないだろう。

③ 「規則を超える者には、いのちを賭けた愛を!!」(中学時代の恩師・林尚志先生〔1934~、イエズス

会司祭、主著『石が叫ぶ福音——喪失と汚染の大地から』岩波書店2011年)の語録より/2014年11月23日、広島の拙宅にて教示を受ける)

*学生たちから(既成の規則には沿わないかたちであれ)筋の通った追及を受けた場合、ルール違反だとして頭ごなしに却下したりせず、彼女ら/彼らの側にあえて立とうとすること。いざとなったら自らの出处進退を明らかにする覚悟を保持すること(拙論「不良精神とコミットメント——藤田省三の倫理学をめぐる断想」〔『現代思想』2004年2月号〕も参照)。

【再録にあたっての註記】退職教員の「研究業績一覧」に代わる“置き土産、として、2015年2月28日に開かれた「三校合同ゼミ打ち上げ」(第一部:報告と討論/第二部:懇親会/会場はともに東京大学教育学部第一会議室)における配布資料(A4判8枚)をほぼそのまま組んでもらった。事後に気づいたデータの誤記・欠落は可能な限り補正してある。

なおエピグラフは、THE BLUE HEARTSの名曲「TRAIN-TRAIN」(作詞&作曲・真島昌利/1988年)の一節から採っている。

跡見学園女子大学、東北大学、東京大学という三つの勤務校のゼミ生を結集するという、願ってもない冒険的企てを焚きつけてくれた佐藤静さんと丹波博紀さん、事前の連絡から準備・片付けまでを取り仕切ってくださった横井夏子さんおよび受付・司会の担当者たち、第一部でスピーチを頂戴したOG・OBの面々、そして何よりも当日参加されたすべての方がた(延べ80名を超えた!)に改めて御礼を申し上げる。教師冥利に尽きる一日だった。